

第 1 2 回利賀ダム建設事業監理委員会審議結果

1. 日 時：令和 5 年 7 月 3 日(水) 14:00～15:50

2. 場 所：利賀ダム工事事務所 会議室 及び Web 会議
(一部 Web による出席)

3. 審議結果：

○利賀ダム建設事業の概要について

- ・利賀ダム建設事業の概要、これまでの事業の進捗状況を報告。
- ・事業を巡る社会情勢等について説明し了承された。

○第 1 1 回委員会の審議結果について

- ・第 1 1 回委員会の審議結果について報告。

○事業の実施状況等に関する事項について

- ・令和 6 年度の工事概要及び工事進捗状況について説明。
- ・転流工事を令和 6 年 7 月に完了し、令和 6 年度から本格的に利賀ダム本体及び地盤変動域対策に工事着手していくことを説明。
- ・北原・長崎地区水源地の水量減少について説明。また、応急対策で水道水復旧の目処がたったため、一部中止していたトンネル工事の再開を地元住民より了承を得られたため 7 月 3 日から工事再開することを説明。
- ・地盤変動域対策について見直しの結果、工程が変更となったことを説明。
- ・第 2 回基本計画変更以降、令和 2 年度より労務費が約 1.19 倍、資材費が約 1.52 倍となっているが、コスト縮減策を進めながら事業の推進を図っていくことを説明。

・

【委員からの意見】

- ・1/1 能登半島地震の影響から高岡市で断水が起こった。住民として断水の影響がいつまで続くのか分からない事が不安で問題が大きくなった事例。今回の北原・長崎地区の対応は事務所の対応が良かったから大きな問題にはならなかったと思う。住民に情報が伝わる事が大切である。
- ・利賀トンネルについて再度の中断とならないように取り組んでいただきたい。その意味で、参考資料に記載の「代替水源の確保の検討」は重要と考えている。
- ・資料 - 3 の p 31 地盤変動域の排土工程の確実性とリスクマネジメントが重要と考える。資料からは工事の工法がわからないので、修正後の排土工程などの是非が判断しづらい。ここでは、事業の竣工予定ありきから、工程が作られているように思う。修正前の工程は、事業者とともにかなりの精度で検討してきた。修正後の工程はいろいろと確実性に乏しく、その是非が判断しづらい。せめて、受注 J V の施工方法でも示してもらえれば、工程が適正であるか評価できそうだ。押場も同様である。

○コスト縮減等について

- ・これまで実施したコスト縮減策及び今後予定しているコスト縮減計画について説明。

【委員からの意見】

- ・今後の変更要因の抜けがないかよく見ておくこと。コスト増の要因となるものについてリスク管理の観点より事前に把握しておくことが重要
- ・環境影響評価結果に基づき取水設備を上部底部の 2 箇所からの取水としているが、堆砂シミュレーションから埋没しない結果を得ていても沈木の影響もあるため注意した方がよい。
- ・資料 - 4 p 13 に最短工程でダムが完成できるようにとの記載があるが、『計画通り』の表記が望ましい。また、トンネル掘削ズリのダム本体骨材への「効率的」な転用の「効率的」の意味が不明。わ

かりやすくした方が良い。

- ・地盤変動域、押場と深礎工が多く施工予定されているが、マンパワーや資材不足が強く懸念される。また、安全管理の観点でハイドロ、ハイエトの関係などを考慮して、施工中止の降水量基準が設定されているのか？本体施工および押場、どちらもこの中止基準が工程に強く影響すると考えられる。速やかに基準値を決めることを勧める。
- ・斜面对策は大規模な工事であり、工期も数年かかる。対策の途中段階で越冬するため注意が必要。冬期間の安全対策も含めしっかりやってもらいたい。
- ・地盤変動域は頭部排土による応力解放により崩落の発生リスクに強く留意する必要がある。本体工事はのり面排土とダムサイト掘削との同時の上下部作業が出てくる。ここは安全確保が極めて重要となる。
- ・工期、工程を守るために、安全や環境保全をないがしろにすることがないように。リスク回避のためにコスト増、工程延伸となることについても事務所は腹を据えて対応すべき。コスト、工期にこだわったために事故が起きたといった事例もある。

○まとめ

- ・本体着工に向けた転流工事が順調に進められる見通しである。
- ・第2回基本計画変更以降、本体工事や貯水池斜面对策工事の設計が進捗し、事業費に大幅な変更が無い見込みであることが示された。
- ・ダム本体及び押場地区の貯水池斜面对策の工程について妥当であることが確認された。非常に厳しい現場であることから、しっかりとした施工計画の検討をお願いしたい。
- ・長崎水源地の水量減少に関する内容について、工事中止における事業の遅れは無いとのことではあるが、今後の掘削において、その影響をモニタリングしながら地域住民の方が困ることの無いよう進めること。
- ・転流工事、利賀トンネル工事及び押場地区貯水池斜面对策においてもコスト縮減が図られており、今後もコスト縮減に努められる見通しである。
- ・リスクマネジメントを確実に進め経費削減に努める。
- ・利賀ダム建設事業は適切に管理されていると考える。